



城南区の様々な所で県政報告を配布



最先端の環境技術を持つ「水素自動車」に乗車



地域のお祭りで壇上からご挨拶



在福岡アメリカ領事館総領事と共に



地域のソフトボール大会でご挨拶



地元城南区の壮年ソフトボール大会に選手として参加



ソフトバンクホークスのハリーホークと共に



地域の会合で「祝いめでた」を熱唱



様々な企業団体の会合で来賓としてご挨拶



福岡県の特産品表彰式に知事と共に参加



政治の必要性を強く訴える



8年間定期的に続けている朝の街頭活動

地域の声を県政に活かす!

福岡県議会議員(福岡市城南区)

もりやまさと 守谷正人

MORIYA REPORT

県政報告 2014.秋 Vol.22



平成19年4月の統一地方自治体議員選挙において皆様からの信任を得て、福岡県議会議員として選出頂きました。この8年間、地域の皆様の声を真摯に受け止め、その声を政策として県政に訴えてきました。私達議員は県民の身近にあつて、ご意見や要望を県政に反映させる責務を担っている事を常々心がけなくてはなりません。

政治に距離を感じた人達にも政治を身近に感じてもらえる様に、今後も「地域と県をつなぎ役」として活動を続けて参ります。これからも初心のままに全力でその使命を果たして参る所存です。今後も引き続き宜しくお願い致します。

福岡県議会議員 守谷正人

9月定例議会報告

9月定例議会は9月17日から10月7日まで21日間の日程で開催されました。本定例会に上程された議案は一般会計補正予算案等28議案で「県警や県行政、暴力団排除活動推進団体等との連携を更に強化し暴力団の壊滅に全力で取り組む」とする決議案等とも最終日に可決しました。

一般会計補正予算は101億9千万円余となっており、事前防災・減災の観点から緊急輸送道路を整備するもの、有床診療所のスプリンクラー設置を加速するために助成費を増額するもの、東京オリンピック・パラリンピックに向けたキャンプ地誘致の為に諸経費等となっております。一般会計補正予算の主なものは以下の通りです。

事前防災・減災対策・95億8700万円余

緊急輸送道路整備、橋梁耐震補強等、医療施設防災設備整備費補助金
放射能測定体制強化費、地域強靱化計画策定費

災害復旧費・4億3000万円余

平成24年、25年災害における被災箇所の着実な年度内復旧のため

その他・1億7400万円余

東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致等推進費
農林水産物鳥獣被害防止対策費



PROFILE 守谷正人
福岡県議会議員
昭和40年 6月21日/福岡市生まれ
昭和59年 3月/西南学院高等学校卒業
平成 元年 3月/西南学院大学商学部商学科卒業
平成 元年 4月/近畿日本ツーリスト(株)入社
平成 8年10月/衆議院議員秘書(国会内)
平成16年12月/(株)九電ビジネスフロント入社

新社会推進・商工委員会委員
国際交流推進対策調査特別委員会委員
福岡県日米友好議員連盟副会長
福岡県都市計画審議会委員
民主党福岡県第2区総支部幹事
九州電力総連組織内議員
西南学院高等学校同窓会評議員
福岡県スポーツ議員連盟事務局長

〒814-0104 福岡市城南区別府6-2-10
TEL 092-851-3679 FAX 092-851-3670
e-mail: macmac0621_1965@mail.goo.ne.jp
ホームページ http://moriya-masato.info/
facebook 更新中



危険ドラッグ規制の県条例制定へ

今年2月4日に天神で発生した危険ドラッグを吸引したドライバーによる事故で、車10台が巻き込まれ12人が重軽傷を負った事件を始め、全国で危険ドラッグの乱用が社会問題化しています。こうした事態を受け、現在 東京や大阪など6都府県で執行部提案による「危険ドラッグ規制条例」が相次いで可決施行されました。

福岡県議会ではこれらの事情に鑑み、12月議会で全国初となる「議員提案条例」として可決を目指すことを会派代表者会議において確認しました。私もこれまで議会において危険ドラッグ規制条例制定を訴えてきました。

危険ドラッグを巡っては、現在、薬事法で1,414種が指定薬物として規制の対象になっていますが、指定薬物の化学構造の一部を変える手口が横行しています。このため、指定薬物と同様の幻覚など健康に影響を及ぼす成分が確認されれば「知事指定薬物」として製造、販売、保管、購入、所持、使用などを規制し、違反した場合の懲役や罰金など厳しい罰則を盛り込むよう県議会で検討します。

性暴力被害者支援センターふくおか

福岡県の性犯罪件数は平成24年517件と全国ワースト4位で、過去10年間を見てもワースト10以内が続いています。性犯罪被害者を支援するための専用拠点施設の設置をこれまで議会で訴えて来ました。平成25年には全国で9か所目となる「性暴力被害者支援センター」が設置され、被害者を親身に支援しています。この間の施設の活動状況等について所管の常任委員会で質問しました。

◎性暴力被害者支援センター・ふくおかについて

性暴力被害は、被害後できるだけ早い段階で適切なケアを受けることが必要です。当センターでは、被害者の意思を尊重しながら、医療機関、警察、弁護士、臨床心理士や各種の犯罪被害者支援機関と連携・協力することにより、少しでも早く心身ともに回復することができるよう、必要な支援を行います。

■相談実績（平成25年7月30日《開設》から平成26年6月30日まで）

電話相談件数………371件<月平均34件>

【被害別】	強姦	強制わいせつ	性的強要	その他の被害	問い合わせ等	計
	61	45	102	19	144	371件



犯罪被害者等支援シンボルマーク

- 支援内容**
- 女性相談員による電話相談
 - 支援制度・専門機関の紹介
 - 病院・警察署などへの付添い
 - 面接相談
 - 性犯罪被害の急性期におけるカウンセリング、弁護士による法律相談

相談専用電話 ☎092-762-0799 相談時間：9時～24時（年末・年始を除く）

城南警察署（仮称）について

平成21年福岡県警察本部が諮問した「第一線警察機能強化委員会」の最終答申で業務過重警察署の分割の対象警察署として筑紫野警察署と早良警察署が挙げられました。これまで早良警察署の分割を求める陳情等が地域からあがり、その実現に向けて、私も議会等で訴え続けてきました。今回、県警本部から早良警察署の分割の必要性、及び 同署管内の治安の状況等について説明を受けました。

地域の安心安全の拠点として城南区にあつたな警察署の開設に向けて今後も力を注いで参る所存です。

■早良警察署の分割の必要性について

- 地元自治協議会からの城南警察署の早期設置についての要望書をはじめとした警察署の新設を求める声については、地域住民の方々の安全・安心を求める切なる願いとして真摯に受け止めています。
- 第一線警察機能強化委員会からの最終答申を受けて策定した「警察署の機能強化計画」(H21.6月)においても、旧筑紫野警察署と早良警察署を分割対象警察署として挙げており、県警察として早良警察署を分割する必要性を認識しています。
- 現在、警察部内において
 - ・現下の治安情勢下、限られた警察力の中で、分割する場合の2つの警察署にどの程度の人員を配分できるのか
 - ・住民の方の生活圈や警察活動の機能性等の観点から、どのような候補地があるのか等を検討しています。



■早良警察署管内の治安等の状況（早良区と城南区）

人口(H25.12.31)	面積(H25.10.1)	刑法犯認知件数(H25中)	警察官数(H26.4.1)
337,144人(1)	111.90km ² (19)	4,226件(4)	約350人(5)

※()の数値は、旧筑紫野警察署分割後の県下35警察署中の順位

■城南区の犯罪の特徴（平成25年中）

- 刑法犯認知件数前年比-337件(-16%)
- 窃盗犯が全体の81%で、そのうち59%が乗り物盗
- 窃盗犯(-19%)は減少、知能犯(+69%)、風俗犯(+50%)は増加
- 窃盗犯のうち、ひったくり(-87%)、オートバイ盗(-39%)、は大幅に減少

若い世代の声を活かす！

(学生インターン生と活動を共に)

年2回(夏休みと春休み)2か月間、市内の学生をインターン生として迎え入れ、社会経験の一環として議会等での行動を共にしています。

学生からの政策提言として『福岡市の保育問題』を各自調査し、対策を発表しました。福岡市の待機児童の数は本年4月、「ゼロ」になりましたが、希望する園が空くの待つ「未入所児」は1,122人存在します。解決策として家庭的保育事業の活用や保育士の充実等を訴えました。

